

一般演題9-6

「頸性耳鳴」に対する高気圧酸素療法(HBO)とリハビリ(運動療法)の効果

井上 治

江洲整形外科クリニック

【目的】

「頸性耳鳴」は保険病名であるが、頸椎椎間板症に起因すると思われる耳鳴りには満足できる治療がなされていない。

【症例】

頸肩部痛や凝りなどに耳鳴を伴い、あるいは耳鳴のみを主訴として受診した4年間157例中、3回以上通院し、治療効果を判定できた82例を対象とした。男性41例、女性41例、36～81歳(平均61歳)で、いずれもレントゲン像で頸椎椎間板症が認められ、自覚症状では肩凝り19例、頭痛29例、めまい28例、上肢のしびれ22例、他覚的所見では圧痛11例、伸展時痛59例、握力低下8例を認めた(重複あり)。

【治療】

消炎鎮痛剤の内服を37例、トリガーポイント注射を27例、リハビリを52例、HBOを48例に行った(重複あり)。

【結果】

82例中、「改善なし」が44例、「改善あり」が38例で、後者は「軽快」3例、「かなり改善」8例、「一時的改善」27例であり、罹病期間が10年以上の12例でも改善が得られた。リハビリを受けた症例では改善あり29人(平均5.9回)、HBOを受けた症例では、改善あり25人(平均6.3回)で共に治療効果が見られた(重複あり)。

【結論】

耳鳴の多くは加齢や原因不明とされ、HBOやリハビリなどを行うことにより半数近くに一定の治療効果が得られたが治療の継続が必要と考えられた。

表1 耳鳴はHBO やリハビリで半数が改善した(平均回数)。

耳鳴改善度	例数	治療(回数は平均値)			
		HBO	リハビリ	消炎剤	トリガー
軽快	4例	4例, 12.7回	2例, 5.0回		
かなり改善	10例	7例, 8.3回	10例, 8.2回	6例	1例
少し改善	26例	24例, 12.3回	18例, 3.7回	11例	9例
改善なし	39例	31例, 3.5回	26例, 4.0回	18例	10例

表2 改善度は随伴症状および椎間孔狭小化との関連は少ない。

耳鳴改善度	例数	随伴症状(重複あり)						レ線孔狭
		頭痛	めまい	しびれ	難聴	圧痛	なし	
軽快	4	1	1	1	1	2	3	
かなり改善	10	4	4	3	4	6	10	
少し改善	26	11	10	6	7	15	19	
改善なし	39	16	14	12	9	19	33	

表3 改善度は重症度や罹病期間との関連も少ないようである。

耳鳴改善度	例数	程度		期間			
		重度	軽度	10年	数年	1年	数月
軽快	4	4	0	1	2	0	1
かなり改善	10	3	5	4	2	0	1
少し改善	26	11	7	10	6	1	3
改善なし	39	16	17	13	19	3	4